

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第2部門第4区分

【発行日】令和6年1月25日(2024.1.25)

【公開番号】特開2022-173206(P2022-173206A)

【公開日】令和4年11月18日(2022.11.18)

【年通号数】公開公報(特許)2022-213

【出願番号】特願2022-135448(P2022-135448)

【国際特許分類】

B 2 9 C 55/02(2006.01)

B 2 9 C 55/12(2006.01)

B 2 9 C 48/08(2019.01)

C 0 8 J 5/18(2006.01)

C 0 8 J 7/00(2006.01)

C 0 8 G 69/04(2006.01)

B 3 2 B 27/34(2006.01)

B 2 9 K 77/00(2006.01)

B 2 9 L 7/00(2006.01)

10

【F I】

B 2 9 C 55/02

B 2 9 C 55/12

B 2 9 C 48/08

C 0 8 J 5/18

C F G

C 0 8 J 7/00

C 0 8 G 69/04

B 3 2 B 27/34

B 2 9 K 77:00

B 2 9 L 7:00

20

【手続補正書】

30

【提出日】令和6年1月17日(2024.1.17)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

フィルムに施した半調印刷10%階調部の1000mm²中ドット抜け個数が100個以下であるポリアミド6樹脂フィルムであって、

40

(a) 前記ポリアミド6樹脂フィルム中のカプロラクタムモノマー濃度が1.6質量%以下であり、

(b) フィルム中のC-C L及び再溶解樹脂の合計割合(但し、C-C Lは、ポリアミド6樹脂の樹脂廃材の解重合反応によって再生されたカプロラクタムを示す。再溶解樹脂は、ポリアミド樹脂の樹脂廃材を溶解して得られるものを示す。)である総再生比率が4.9~97.5質量%である、

ことを特徴とするポリアミド6樹脂フィルム。

【請求項2】

フィルムに施した半調印刷10%階調部の1000mm²中ドット抜け個数が100個以下であるポリアミド6樹脂フィルムであって、

50

(a) 前記ポリアミド 6 樹脂フィルム中のカプロラクタムモノマー濃度が 1 . 6 質量 % 以下であり、

(b) M D 方向の引張伸度が 6 0 % 以上である、
ことを特徴とするポリアミド 6 樹脂フィルム。

【請求項 3】

ポリアミド樹脂フィルム中のアミノ末端基及びカルボキシル末端基の含有量がそれぞれ 8 0 m m o l / k g 以下である、請求項 1 又は 2 に記載のポリアミド 6 樹脂フィルム。

【請求項 4】

温度 2 3 及び湿度 5 0 % R H 雰囲気下でのフィルム衝撃強度の最小値と最大値の比 (最小値 / 最大値) が 0 . 5 ~ 1 . 0 である、請求項 1 又は 2 に記載のポリアミド 6 樹脂フィルム。

10

【請求項 5】

降温結晶化ピークの半値幅が 1 0 以上であるポリアミド樹脂を含む、請求項 1 又は 2 に記載のポリアミド 6 樹脂フィルム。

【請求項 6】

二軸延伸されている、請求項 1 又は 2 に記載のポリアミド 6 樹脂フィルム。

【請求項 7】

請求項 1 又は 2 に記載のポリアミド 6 樹脂フィルムと、前記ポリアミド 6 樹脂フィルムに積層されたシーラント樹脂層とを含む積層フィルム。

【請求項 8】

請求項 1 又は 2 に記載のポリアミド 6 樹脂フィルムを含む包装材料。

20

30

40

50